

鹿児島県 西大隅圏域 総合水産基盤整備事業計画

1. 圏域の概要

(1) 水産業の概要

① 圏域内に位置する市町村および漁業協同組合の概要

- ・ 当圏域は、鹿児島県大隅半島の西岸に位置し、関係市町村は垂水市及び鹿屋市の2市で、関係漁協は牛根漁業協同組合（令和2年度末組合員数260名、年間水揚高1,163トン、7.6億円）、垂水市漁業協同組合（令和2年度末組合員数616名、年間水揚高1,163トン、54億円）及び鹿屋市漁業協同組合（令和2年度末組合員数208名、年間水揚高3,591トン、37億円）の3漁協である。

② 主要漁業種類、主要魚種の生産量、資源量の状況

- ・ 主な漁業は、静穏な海域特性を活かしたカンパチ・ブリ等の魚類養殖業や、小型底曳網、刺網、一本釣漁業である。また、カツオ一本釣漁業用のカタクチイワシを採捕する小型まき網漁業も営まれている。
- ・ 主な魚種は、魚類養殖漁業のカンパチ、ブリで、沿岸漁業では小型底曳網によるエビ類、一本釣りや刺し網ではアジ・サバ等や放流対象種であるマダイやヒラメが漁獲される。
- ・ 資源量については、他圏域と同様に、漁獲対象種の資源状態が低迷しているが、閉鎖的海域であることから、放流事業を行っているマダイやヒラメについては、他地区より高い放流効果がみられる。

③ 水産物の流通・加工の状況

- ・ 圏域内の流通拠点漁港である牛根麓漁港においては、産地市場は有していないが、陸揚げされた養殖ブリを、漁港に隣接する水産加工場から国内はもとより、アメリカへ輸出も行っている。
- ・ 生産拠点漁港である海潟漁港は、漁港周辺の静穏海域において養殖されたカンパチを漁港背後に隣接するHACCP認証を受けた水産加工場で加工し、国内や海外（シンガポール、香港、ベトナム等）へ出荷している。
- ・ 鹿屋市内に鹿屋市と民間が開設する消費地市場があり、大隅半島内の漁港から水産物が集荷されている。
- ・ 代表的なブランドとしては、「海の桜勘」：垂水市漁協、「ぶり大将」：牛根漁協、

「かのやかんぱち」：鹿屋市漁協がある。

④ 養殖業の状況

- ・ 流通拠点漁港の牛根麓漁港でブリの魚類養殖業（令和元年水揚量 8,135 t）、海潟漁港でカンパチの魚類養殖業（令和元年水揚量 4,389 t）、鹿屋港でカンパチの魚類養殖業（令和元年水揚量 4,189 t）が営まれている。

⑤ 漁業経営体、漁業就業者（組合員等）の状況

- ・ 圏域の漁業を取り巻く環境は、養殖業にあっては、魚価の低迷、餌料・燃油資材等の高騰、漁船漁業にあっては、資源状況の悪化、魚価の低迷、燃油資材等の高騰により、非常に厳しくなっており、組合員数も年々減少し、高齢化の傾向にある。

⑥ 水産業の発展のための取組

- ・ マダイ、ヒラメ等の放流事業や藻場保全活動による沿岸資源の維持・増大に取り組んでいるほか、直売所・レストラン（海の桜勤、みなと食堂、垂水元気市など）の運営、ブランド化（海の桜勤、ぶり大将、かのやかんぱちなど）による水産物の付加価値向上や6次産業化に取り組んでいる。

⑦ 水産基盤整備に関する課題

- ・ 生産・流通・加工・販売の経済活動を支える水産基盤整備については、水産資源の維持増大を図るための水産環境整備を計画的に進めるとともに、産地市場の衛生管理対策、生産コストの縮減を図るための施設整備、及び、激甚化する台風等による浸水被害や南海トラフ地震等、切迫する巨大地震に対する漁港漁村の防災・減災対策が課題である。

⑧ 将来的な漁港機能の集約化

- ・ 今後、10年程度で圏域内の漁港施設について、統合や廃止、同一漁港内での機能再編の予定は無い。

(2) 圏域設定の考え方		
① 圏域タイプ	生産力向上型	設定理由； 主にブリ類の養殖漁業が盛んで、水産物を計画的又は持続的に生産し、産地市場を有する流通拠点漁港でセリ等を行い、消費地や加工場へ出荷する。
② 圏域範囲	垂水市および鹿屋市	設定理由； 同一魚種、漁業種類で資源管理等に取り組んでいる範囲
③ 流通拠点漁港	牛根麓漁港 (第2種)	設定理由； ・産地市場を有していないが、圏域内の最大陸揚げ量を誇り一定の港勢を満足する。今後、岸壁と一体とした荷さばき所を整備する計画があり、衛生管理対策も実施する。 ・災害発生後において、流通拠点として早期に漁港機能を回復させるため漁港BCPを運用し、漁港利用者の避難対策を確立するなど大規模地震等に備えることとする。
④ 生産拠点漁港	海潟漁港 (第2種)	設定理由； ・牛根麓に次ぐ陸揚げ量を有しており、荒天時に避難漁船を周辺漁港から集約するなど、漁船の安全性を確保するとともに、生産拠点漁港として、今後、衛生管理型の荷さばき所を整備する。また、早期に漁港機能を回復させるため漁港BCPを策定し、漁港利用者の避難対策を確立するなど大規模地震等に備えることとする。
⑤ 輸出拠点漁港	牛根麓漁港 (第2種)	設定理由； ・牛根麓漁港は、鹿児島湾の静穏な

	海潟漁港 (第2種)	<p>海域特性を生かしたブリの養殖が盛んであり、漁港に隣接する水産加工場より、アメリカへの輸出実績がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 海潟漁港は、漁港背後に隣接するHACCP 対応の水産物加工場で加工された養殖カンパチを海外への輸出実績がある。
--	---------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(令和元年)

圏域の属地陸揚量(トン)	17,436	圏域の登録漁船隻数(隻)	815
圏域の総漁港数	5	圏域内での輸出取扱量(トン)	
圏域で水産物の水揚実績がある港湾数	1		

当該圏域を含む養殖生産拠点地域名	西大隅
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における主要対象魚種	ブリ類
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別生産量(収穫量)(トン)	16,713
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別海面養殖業産出額(百万円)	16,925

2. 圏域における水産基盤整備の基本方針

(1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

①流通拠点漁港等の生産・流通機能の強化

- ・ 流通拠点漁港である牛根麓漁港においては、荒天時における静穏な海域が確保されていないことや養殖ブリを陸揚げする岸壁が不足している。また、荷さばき所も手狭で衛生管理対策が不十分である。このため、静穏海域を確保するための防波堤の整備、不足する用地や陸揚げ岸壁の整備、衛生管理（L3対応）や ICT を導入した荷さばき所の整備を実施し、海外への輸出促進を図る。
- ・ 生産拠点漁港である海潟漁港においては、施設の長寿命化対策を行い、安心・安全な漁業活動を確保し、安定的な水産物の供給を図るとともに、衛生管理対策の推進を図る。

②養殖生産拠点の形成

- ・ 牛根麓漁港においては、荒天時における静穏な海域が確保されていないことや養殖ブリを陸揚げする岸壁が不足している。また、荷さばき所も手狭で衛生管理対策が不十分である。このため、静穏海域を確保するための防波堤の整備、衛生管理（L3対応）や ICT を導入した荷さばき所の整備など基盤の整備を進め、海外への輸出促進を図る。

(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

①環境変化に適応した漁場生産力の強化

- ・ 当該圏域は、鹿児島湾内に位置し、海面養殖業に適した静穏な海域で、藻場も外海域よりは比較的多く、放流対象魚であるマダイは放流事業の継続により資源量が維持されている。
- ・ 今後、長期的な水温上昇など、漁場環境の悪化が予測され、漁業生産や養殖生産量が減少する恐れがあることから、水産資源の回復及び増大を図るための漁場の整備や漁場環境の保全に取り組んでいく。
- ・ 魚礁設置後に漁獲調査や蛸集状況調査等によるモニタリングを実施し、結果を検討して得られた知見を積極的に次の漁場整備に活かし、整備効果の向上を図る。

②災害リスクへの対応力強化

- ・ 当該圏域の流通拠点漁港である牛根麓漁港及び生産拠点漁港である海潟漁港は、古くから鹿児島湾の静穏な海域を利用した養殖業が盛んであり、水産業が地域の基幹産業となっていることから、南海トラフ地震等、切迫する大規模地震による被害の早期回復が必要であり、岸壁の耐震・耐津波化や漁港BCPの運用な

ど、大規模地震等に備えることとする。

- ・ 近年の台風の激甚化により、港内静穏度の確保が必要なため、外郭施設等の整備を進める。
- ・ 施設の老朽化が進み、補修・更新時期を迎える施設が多くなることから、「事後保全」から「予防保全」型への転換を図り、新技術の積極的な活用により、これまで以上にライフサイクルコストの縮減と予算の平準化を図る。

(3) 「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

① 「海業」による漁村の活性化

- ・ 漁村地域では、高齢化・過疎化が進行し、浜の活力の低下が懸念されることから、地域が一体となったブルー・ツーリズムの推進体制づくりを促進し、農林水業や観光産業との連携強化による多様なネットワークやメニュー作りを行う。

また、都市住民等のニーズを把握し、漁村地域が持つ魅力について情報発信するとともに、漁業体験型の教育旅行の誘致や漁家での宿泊体験などの取組を促進する。

② 地域の水産業を支える多様な人材の活躍

高齢化・過疎化により漁業就業者数は減少傾向であることから、漁業就業希望者への就業情報や漁業情報の発信提供、各種研修の実施等により、漁業就業に意欲的な人材を育成し、将来の漁業生産の担い手を確保する。

また、漁業就業者等の労働環境の改善、利便性の向上を図る施設整備を行う。

3. 目標達成のための具体的な施策

(1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

①流通拠点漁港等の生産・流通機能の強化

地区名	主要対策	事業名	漁港・港湾名	種別	流通拠点
牛根麓	流通機能強化	流通基盤	牛根麓	2	牛根麓
海潟	流通機能強化	生産基盤	海潟	2	牛根麓

・牛根麓漁港

静穏海域を確保するための防波堤の整備、不足する用地や陸揚げ岸壁の整備、衛生管理（L3対応）やICTを導入した荷さばき所の整備を実施し、海外への輸出促進を図る。

・海潟漁港

施設の長寿命化対策を行い、安心・安全な漁業活動を確保し、安定的な水産物の供給を図るとともに、衛生管理対策の推進を図る。

②養殖生産拠点の形成

地区名	主要対策	事業名	漁港・漁場名	種別	流通拠点
牛根麓	養殖拠点	流通基盤	牛根麓	2	牛根麓
海潟	養殖拠点	生産基盤	海潟	2	牛根麓

(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

①環境変化に適応した漁場生産力の強化

地区名	主要対策	事業名
鹿児島湾・大隅	資源管理	水産環境

・鹿児島湾・大隅海域

魚礁設置等により水産資源の回復及び増大を図る。

②災害リスクへの対応力強化

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
牛根麓	安心安全	機能強化	牛根麓	2	牛根麓
海潟	安心安全	機能強化	海潟	2	牛根麓
海潟	予防保全	機能保全	牛根麓	2	牛根麓
中浜	予防保全	機能保全	中浜	1	牛根麓
垂水南	予防保全	機能保全	垂水南	1	牛根麓

・牛根麓漁港外1漁港

機能診断結果を基に外郭施設や係留施設の耐震・耐浪・耐津波化の整備を進める。

・海潟漁港外 2 漁港

持続可能なインフラ管理の推進として機能保全計画に基づき漁港施設の機能回復を図る。

(3) 「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

① 「海業」による漁村の活性化

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
全域	地域 活性化	ブルー・ツーリズム PR推進事業	全域		牛根麓

・圏域漁港全域

農林水業や観光産業との連携強化による多様なネットワークやメニュー作りを推進。

都市住民等のニーズを把握し、漁村地域が持つ魅力について情報発信すると共に、漁業体験型の教育旅行の誘致や漁家での宿泊体験などの取組を促進する。

② 地域の水産業を支える多様な人材の活躍

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
全域		かごんま漁師育成推進	全域		牛根麓
全域		漁業生産の担い手育成確保 事業	全域		牛根麓

・圏域漁港全域

漁業就業希望者への就業情報や漁業情報の発信提供、各種研修の実施等により、漁業就業に意欲的な人材を育成し、将来の漁業生産の担い手を確保する。

4. 環境への配慮事項

- ・平成 24 年 3 月 16 日に霧島屋久国立公園を分割、霧島錦江湾国立公園となった。鹿児島・宮崎両県にまたがる霧島連山を中心に、その山麓を包括して、霧島と呼称され、また、我が国随一の海域カルデラとしてその周辺海域を包括して、錦江湾と呼称され、始良カルデラの南縁に位置する桜島を中心として、佐多岬、指宿などで錦江湾地域を構成している。
- ・本圏域は、霧島屋久国立公園の普通地域に属するため、これまでも周辺環境にあたる影響に十分配慮し、関係機関と調整をしながら整備を進めている。
- ・今後も、引き続き周辺環境に配慮し、環境と調和した漁港整備に努めていく。

5. 水産物流通圏域図

別添、「鹿児島県 水産物流通圏域図」

6. 当該圏域を含む養殖生産拠点地域図

鹿児島県(ブリ類)養殖生産拠点地域図

西大隅養殖生産拠点	漁港拠点型
魚種別生産量(収穫量):	16,713 t
魚種別海面養殖産出額:	169 億円

種子島屋久島圏域内で稚魚を採取。
飼料は県外から調達。
西大隅圏域内で成魚飼育後、牛根龍漁港・海潟漁港・鹿屋港で陸揚げし、背後の加工場へ出荷。



